

自宅に洪水「ういてまで」

台風の季節。もし自宅に洪水が押し寄せたら——。海や川で溺れた時と同様、「ういてまで」が最も効果的だとして、水難救助の専門家らが普及を急いでいる。きっかけは昨年の西日本豪雨だ。

水難学会・越智さん 普及努める

実家近くで洪水が起きた場合、離れて暮らす息子は高齢の両親にどんな言葉をかけたらよいのか——。一般社団法人「水難学会」が昨秋発行した機関誌には、その一例が示されている。

救命胴衣を着けるよう促した後で息子は言う。「お父さんは足が悪いから自力で階段を上がれないけど、浮いてさえいれば、水位の上昇とともに2階に上がる」

書いたのは、水難学会メンバーで愛媛県八幡浜市の市立八幡浜総合病院の医師・越智元郎さん(66)。長く救急災害医療に携わり、海や川で溺れた場合に備え、服を着たまま水面に仰向けで浮き、助けを待つ方法の普及に努めてきた。

「着泳」と名付け、学会メンバーの救急救命士らが全国の小学校などで講習会を開催。「ういてまで」は着泳を子どもにも分かりやすいように言い換えたものだ。

大震災 児童実践

越智さんらは「まずは避難が第一」としたうえで、洪水などで自宅内に水が押し寄せ、屋外へ流される恐れが少ないケースでは「ういてまで」が有効だとする。毎年講習を受けていた宮城県東松島市の小学校では、東日本大震災で児童が避難した体育館に津波が押し寄せた際、「ういてまで」を実践して助かった児童や教員がいたという。具体的には次のような動きを勧める。

「大きく息を吸って肺に空気をため、手足を大の字に広げて仰向けになる。バランスが取れ、安定して浮くことができ

る」



越智元郎さん

「特に着衣のときは、服の中の空気を逃さないようにすれば、浮き続けることができる。靴も軽ければ浮き具になるのではないかとままがい」

「浮き具」は身近に

「身近なものが浮き具に使える。灯油缶(18リットル)は取っ手がかりロープがあれば体に固定できる。ランドセルも浮力があがる。クーラーボックスは気密性がよくて水圧で変形しなければ、体を長時間浮かせておくことができる」

各地で「ういてまで」の重要性を説いてきた越智さんらだが、西日本豪雨時の倉敷市真備町地区での被害の大きさには衝撃を受けたという。

亡くなった51人(災害関連死除く)の状況を調べた朝日新聞の調査(昨年8月時点)では、屋内で犠牲になったのは43人。一方、浸水の高さは5層超の場所が広範囲にわたっており、上階へと移動する「垂直避難」をしても危うい場所が多かったとみられる。

越智さんは、「ういてまで」が有効だと住民が知っていれば、高齢者や体が不自由な人でも自力で助かったかもしれないと考える。「いざというときに備えておくことが命を救う」。今後、これまで以上に行政や福祉施設へのアプローチを進めていくという。

岡山

どちらの処方せん
でも受付ます

あなたの身近なお店



YAMAKAWA
PHARMACY

やまかわ薬局

本町店 / 野田店
上中野店 / 大供表町店
中山下店 / 松浜店
庭瀬店 / 赤磐本店

〔野田店〕

岡山市北区野田3丁目18-52

やまかわ薬局

検索

水難学会が普及を進める「ういてまで」

靴ははいたまま。
スニーカーなど軽い
靴は浮き具代わりに

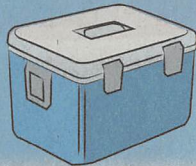
大きく息を吸い、空気に
肺をためる。あごを上げて
上を見ると呼吸しやすい

手足を伸ばし大
の字に広げる



手は水面より下に。
ペットボトルやカバン
があれば胸に抱える

浮き具になるもの



ランドセル

本類が入って
いればさらに浮
力が増す

クーラーボックス

内部に空気がた
められる。発泡材
が使われている

ペットボトル

1.5リットル程度あれ
ば浮力を確保